

とむらごとうけ ③十村後藤家跡

押野一丁目

押野村の後藤家は、代々十村（※1）を務めた一族です。後藤家は、富樫泰俊の三男である宗俊を祖としています。宗俊は、一向一揆から越前へ逃れていましたが、再び加賀へ戻り、後藤弥右衛門と名前を改めて押野村字清水に居住したと言われています。その子である藤右衛門は、十村として押野村とその周辺10か村ほどの支配を命じられ、子孫は幕末に至るまで、代々この役を務めました。後藤家は、高皇産霊神社の隣地にありましたが、現在建物はなくなり、蔵だけが残っています。



後藤家屋敷跡地

※1 江戸時代の加賀藩における農政制度で、前田利常が制定した地方の有力農民のこと。10か村ほどの組みを束ねる役割を担ったため「十村」と称した。

やまごみかわのかみやかた ④山川三河守館跡

本町二丁目～高橋町

山川氏は、富樫家から4代目の富樫家経の子である繁家を先祖とし、富樫氏の家臣として仕えました。その名字から本拠地は現在の金沢市山川町周辺と考えられます。

山川三河守は、守護である富樫政親の守護代として活躍した山川高藤とされています。その館は、押野館（地図NO.4）と富樫館（地図NO.3）の間にあったと伝えられており、平成五年（1993）に館推定地の一部で発掘調査が行われ、室町時代の遺構や遺物を発見しました。館に直結するものは確認できませんでしたが、山川氏が活躍した時代の遺跡が見つかった成果は大きいと言えます。



館跡推定地